

中山商事 (株)

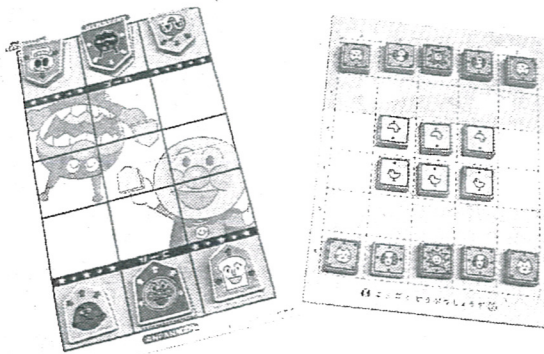
イヌ・ひよこ・アンパンマン・恐竜…

かわいい駒で将棋の一步



様々な新しい「将棋」を手がける北尾まどか女流初段
＝東京都新宿区

▲アンパンマン将棋(左)と
イヌ・ひよこ将棋(右)の駒



従来の「本将棋」とは違う新しい「将棋」の登場が相次いでいる。取っ付きやすいようにルールが簡略化されていたり、愛らしいイラストが描かれていたり。知育の面からの期待もかかる。

ルール易しく親子で

積み木のような四角い駒に描かれているのは文字ではなく、動物のイラスト。盤面は5×6と本将棋より小さい。将棋のミニチュア版とも言える「ごころごぶつしょうぎ」(幻冬舎エデュケーション、2100円)は、11月から書店や玩具店で販売されている。

ライオン(将棋の玉将に相当)といぬ(金将)、ねこ(銀将)、ひよこ(歩兵)の4種類の駒で遊ぶ。初心者でもわかりやすいように、駒の動きを示すマークがついている。ルール作りなどは北尾まどか女流初段(32)、イラストは元女流棋士の藤田麻衣子さん(39)が担当した。

制作のきっかけは、将棋に親しんでもらう狙いで2人が作った「ごぶつしょうぎ」のヒットだった。「ごぶつ」は盤面が3×4と「ごころ」より狭く、親しみやすさと手軽さが受けて、40万セット以上が出荷される人気商品になった。

北尾女流初段は「易しいごぶつしょうぎと難しい本将棋の間のゲームが欲しいという声が多かった」と説明する。「ごころ」では駒の数を8個から16個に増やし、「ごぶつ」にはなかった打ち歩詰めに当たるルールを取り入れるなど、本将棋

へのステップアップを意識した。

北尾女流初段は他にも、6個の駒で遊ぶ「アンパンマンはじめてしょうぎ」(セガトイズ、1890円)などを手がけている。「子どもにとっては、駒を取ったり王手をしたりすることが楽しい。ルール作りの際はそこを意識している」と話す。これらの新しい「将棋」は、ゲームとしてだけでなく知育の面でも注目を集めている。本将棋だと敬遠してしまう親も手に取りやすく、親子で楽しめる点がメリットだ。

幻冬舎エデュケーションの担当者「最近では、知育教材のブームに力を入れている書店も多くなった。この分野は廃れることがない。ごぶつしょうぎがロングセラーになっているのは、そういった背景がある」と話す。

紙で開発 知育教材にも

地方から新しい「将棋」を発信しようとする取り組みもある。

福井市の紙加工メーカー「中

山商事」は、恐竜のイラストをあしらった紙製の駒を使う「きょうりゅうしょうぎ」を開発した。福井県は県内で化石が多数見つかるなど、恐竜が身近な土地柄だ。

発案したのは元女流アマ将棋名人の社員、石内奈々絵さん(28)。ルールは本将棋と同じだが、駒を取ることを学ぶミニゲームなどが楽しめるように工夫した。電話(0776・53・8000)などによる注文に応じて生産し、販売している。

石内さんは「親世代だけでなく、『孫と一緒に遊びたい』という年配の方からの注文も多かった。知育教材として、まずは県内全域に広げていきたい」と話す。来年は全国の書店などでの販売も予定している。

きょうりゅうしょうぎの駒には愛らしいイラストが描かれている＝中山商事提供

(村瀬信也)